

北海道新聞 2008年3月11日(火)

<地下鉄駅の転落防止>

南郷7丁目駅 ホーム柵完成

転落事故防止のため、札幌市交通局が導入する可動式ホーム柵が、札幌市白石区の市営地下鉄東西線南郷7丁目駅で完成し、報道陣に10日、公開された。

ホーム柵の扉の高さは1尺20寸、幅は2尺40寸。車両の扉と連動して開閉する。開く時は「ピコー、ピコー」、閉まる時は「ピピピ…」と連続音が鳴り、乗降客に注意をうながす。

市交通局によると、2005年4月以降、今月10日までのほぼ3年間に、市内の地下鉄全線で84件の転落事故があり、うち41件は東西線で起きている。このため、普段は使っていないホームのある東西線南郷7丁目駅に第一号を設置した。4月下旬から、午前6時の始発時にのみ使用される。

今後は2008年度中に東西線全駅にホーム柵を設置する予定で、南北線は2013年度、東豊線は2018年度までに順次導入される。

東西線は今年9月から、新さっぽろ駅から順に工事を進める。これに伴い、現在は運転士と車掌の二人が車両に乗っているが、ホーム柵導入で、2009年度からはワンマン運転に切り替え、人件費の削減を図る計画。ホームにはモニターが4カ所取り付けられ、運転士の席から乗客の安全が確認できるという。 (本庄彩芳)



東西線から設置が始まる可動式ホーム柵